

研究協力のお願

岐阜県総合医療センターでは、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は、下記のお問い合わせ先までお願いいたします。

なお、研究への参加をお断りになった場合でも、将来にわたって当センターにおける診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究名：妊娠期のステロイド使用による胎児への影響

1. 研究対象者および研究対象期間

当院で2020年6月～2024年10月に分娩した妊婦のうち、妊娠全期間の中でステロイドを使用した方

2. 研究目的・方法

全身性エリテマトーデスや関節リウマチ、炎症性腸疾患の活動期では妊娠中でも必要であればステロイドの投与が推奨されています。しかし、その投与量や期間は必要最低限にすることが望ましいとされているため、中等量以上のステロイド使用による胎児への影響の報告は限られています。本調査では、妊娠期の少量ステロイド使用された患者と中等量以上のステロイド使用された患者の比較による胎児への影響を調査することで、中等量以上のステロイド使用による胎児への影響を確認します。調査方法は電子カルテを用いて、後方視的に下記に示す内容を調査します。なお、調査は金城学院大学、刈谷豊田総合病院と共同で行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

<母体>ステロイド投与時期→妊娠超初期（：0w0d～3w6d）、妊娠初期(4w0d～13w6d)、妊娠中期(14w0d～27w6d)、妊娠末期(28w0d～)、妊娠各時期における1日当たりステロイド投与量、妊娠各時期におけるステロイド総投与量（1日当たりのステロイド投与量×使用日数）、出産時年齢、出産回数、分娩時母体体重、分娩方法、既往、合併症、併用薬、併用サプリメント
<出生児>出産週数、児の出生体重、児入院の有無、出生時Apスコア（出生直後の状態を評価する指標）、出生時PH、出生時の形態異常、FGR（胎児発育不全）の有無、出生日の低血糖の有無

4. 個人情報の取り扱い

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用致します。

5. お問い合わせ先

岐阜県総合医療センター 薬剤部 平下智之、土川拓也 電話番号：058-246-1111